

学習指導案の記述例と留意点（「道徳科学習指導案の例」）

道徳科学習指導案			
1	主題名	
2	ねらい	
	教材名	
3	主題設定の理由		
	(1) ねらいや指導内容について		
	(2) これまでの学習状況及び児童生徒の実態について		
	(3) 教材の特質や活用方法について		
4	人権教育上のねらい（個別の人権課題「子供」）		
	将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自 他を尊重する精神を養う。		
5	人権教育上の視点		
	(1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利に ついて知識をもつとともに、いじめなど身の回りの問題の 不当性を理解する。（知識）		
	(2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション の能力を高めることができる。（技能）		
6	学習指導過程		◎人権教育上の配慮
	段階	学習活動 主な発問	予想される児童生徒の反応 ・ 指導上の留意点
	1
	2	◎身の回りの問題に関す る現状を認識させるた め、「条約」と「いじめ 発生件数」の資料を提示 する。（知識）
	3
	4	◎相互尊重のコミュニケ ーションスタイルを学 ばせるため、アサーティ ブトレーニングを取り 入れる。（技能）
	5
7	他の教育活動との関連		
8	評価の視点		

← ポイント 1

1 }
2 } ← ポイント 1
3 }
6 }
7 }
8 }

← ポイント 2

← ポイント 3

← ポイント 2

← ポイント 4

← ポイント 2

← ポイント 5

← ポイント 5

← ポイント 5

人権教育上のねらい }
人権教育上の視点 } ← ポイント 6
人権教育上の配慮 }

- ・ポイント1・・・学習指導案は、各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動の様式を原則とし、学習指導要領を基に記述する。
学習指導案様式は、埼玉県教育委員会の刊行物を参照。

- ・ポイント2・・・学習指導案に「人権教育上のねらい・視点・配慮」の項目を設けて記述する。

4 人権教育上のねらい（〇〇の人権課題「□□□□」）……（ ）内に人権課題を明記する。
5 人権教育上の視点
◎ 人権教育上の配慮

- ・ポイント3・・・本単元（本時）で解決を目指す人権課題を「人権教育上のねらい」に明示する。

（個別の人権課題「子供」）

将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。

※記述する際は、「～を養う」や「～ができるようになる」などといった表記となる。

（普遍的な人権課題の内容例）

世界人権宣言や日本国憲法に示されているようなもの（「法の下での平等」「個人の尊重」など）や、「人権感覚育成のための視点」に示してある9つの視点など。

（個別の人権課題の内容例）

埼玉県人権教育実施方針に示されているもの（「女性」「子供」「高齢者」「障害のある人」「同和問題」「外国人」「H I V感染者等」「犯罪被害者やその家族」「アイヌの人々」「インターネットによる人権侵害」「北朝鮮当局による拉致問題」「災害時における人権への配慮」「様々な人権問題（刑を終えて出所した人、性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ、ホームレスの人権、プライバシーの侵害、その他）」）

- ・ポイント4・・・「人権教育上のねらい」に明示した人権課題を解決するために必要な「知識」、「価値・態度」、「技能」を「人権教育上の視点」として記述する。

(1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識をもつとともに、いじめなど身の回りにある人権問題の不当性を理解する。（知識）
(2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。（技能）

※記述する際は、「～を理解する」や「～しようとする」、「～できる」などといった表記となる。

- ・ポイント5・・・「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を本時の展開の中で身に付けさせるための具体的な手立てを「人権教育上の配慮」として記述する。

◎ 身の回りの問題に関する現状を認識させるため、「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示する。（知識）
◎ 相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせるため、アサーティブトレーニングを取り入れる。（技能）

※記述する際は、「～を提示する」や「～を促す」などといった表記となる。

- ・ポイント6・・・「人権教育上のねらい・視点・配慮」の整合がとれていること。
本時で扱う人権課題の解決に必要な知識、価値・態度、技能が身に付くような具体的な手立てがなされていることがはっきりと示されていることを確認する。